

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2025年／令和7年

第488号

10月号

（毎月1回10日発行）

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290



願い、挑み続けた先に…

第60回全日本大学女子選手権大会で「初優勝」を飾った城西大学（埼玉）

C o n t e n t s

・第60回全日本大学男子選手権大会 ……………	2	・第54回日本男子リーグ第3節 ……………	20
・第60回全日本大学女子選手権大会 ……………	4	・ニトリ JD.LEAGUE 2025 第10節・第11節 ……………	24
・第47回全国中学校男子・女子大会 ……………	6	・第58回日本女子リーグ第3節 ……………	28
・第46回全日本クラブ男子選手権大会 ……………	10		
・第22回全日本一般男子大会 ……………	12	・リーグも再開！全日本大会も開催続く!! ……………	32
・第30回全日本レディース大会 ……………	14		
・第34回全日本実年大会 ……………	16	・事務局だより ……………	34
・第40回全日本壮年大会 ……………	18		

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

文部科学大臣杯

◎第60回全日本大学男子選手権大会◎

令和7年9月6日（土）～8日（月）富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

日本体育大学（東京）



記録提供：富山県協会記録委員会

激闘を勝ち上がりベスト4に名乗りを上げたのは、大学ソフトボールの名門にして強豪、日本体育大学（東京）をはじめ、神戸学院大学（兵庫）、中京大学（愛知）、同志社大学（京都）。それぞれが大会最終日、「大学王者」をかけた最後の戦いに挑んだ。



大学生の好プレイの数々に球場が沸いた

大学男子ソフトボール「日本一」を決める「第60回全日本大学男子選手権大会」（インカレ男子）が、去る9月6日（土）～8日（月）の3日間、富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場を舞台に開催された。

大会には全国各ブロックの予選を勝ち抜いた32チームが出場。パワー・スピード・技術、そして大学生らしい「若さ漲る」ソフトボールで球場に訪れた多くの人々を魅了した。

《準決勝》 日本体育大 6―2 神戸学院大

後攻の日体は初回、二死から3番・津田龍輝がレフト前ヒットで出塁すると、続く4番・阿部広夢がセンターへ豪快なツーランホームランを叩き込み、2点を先制。2回裏にも相手守備の乱れに乗じて1点を追加し、序盤3点のリードを奪った。



先制ツーランを放った日体・阿部広夢

日体はその後、5回表に一発（ツーランホームラン）を浴びて1点差に詰め寄られたが、その裏、1番・竹内淳貴、3番・津田龍輝に相次いでソロホームランが飛び出し、再び得点差を3点に。6回裏には一死一塁から8番・谷村莉月のタイムリーツーベースで6点目を加え、勝利を収めた。

《準決勝》 中京大 1―0 同志社大

両チームチャンスを作りながらも決定打が出ず、0―0のまま延長タイブレークに突入。

迎えた延長8回表、同志社は死球、送りバントで一死二・三塁としたが、後続が空振り三振、センターフライに倒れ、この回も無得点。

その裏、中京は先頭の1番・安形恭悟が故意四球で歩かされ、無死一・二塁。2番・神谷蓮士朗はセンターフライに打ち取られ、一死となったが、3番・中川賢太郎がツーボールからの3球目をとらえ、ライト前へタイムリ―！ タイブレークの走者・北川航大が歓喜の生還を果たし、1―0でサヨナラ勝ち!! 前回準優勝・大会屈指の好投手を擁する同志社を破り、32年ぶりの決勝進出を決めた。



中京、32年ぶりの決勝へ！

《決勝》 日本体育大 8―0 中京大

日体は2回表、一死から5番・宮本祐道がレフト前ヒット。左翼手が打球の処理を誤る間に二塁へ進むと、続く6番・古賀亮祐のライト前へのタイムリーで生還し、1点を先制した。

先手を取った日体は3回表にも、1番・竹内淳貴、3番・津田龍輝、4番・阿部広夢の3本のソロアチで3点を追加。4回表には相手投手の制球の乱れにつけ込み、足で揺さぶって2点、5回表にも4番・阿部広夢の2打席連続ホームラン（ツーランホームラン）で2点を加え、8―0とリードを広げた。

投げては、エース・吉本和央がこの決勝も先発して試合を作り、途中（4回裏）「弟」吉本凜に継投する余裕の試合運び。5回裏、「兄」吉本和央が再登板し、三者凡退で締めくくり、5回得点差コールドが成立。まさに「圧勝」で2年連続34回目の優勝を飾った！



日体が投打に圧勝!!

大会トーナメント表、全試合イニングスコアはこちら！



文部科学大臣杯 第60回全日本大学女子選手権大会

令和7年8月29日（金）～31日（日）
愛知県安城市／デンソー プライムパegasus スタジアム 他
記録提供：愛知県協会記録委員会



歓喜爆発！初優勝！！

城西大学（埼玉）



優秀選手
鶴田美優
（日本文理大学）

大会 MVP
向田衣舞
（城西大学）

【大会概要】

標記大会が、8月29日（金）～31日（日）の3日間、愛知県安城市・デンソー プライムパegasus スタジアムを主会場に開催された。

大会には全国の精鋭32チームが参加。大会初日、4球場を使用し、1回戦16試合を実施。大会2日目に2回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を実施して全日程を終了した。

大会は尋常ではない「酷暑」「猛暑」の中での開催となり、適宜「給水タイム」を設け、また試合開始時間の調整等も行いながら、選手・審判員、応援団、観客の皆さんの健康状態等にも細心の注意を払い、大会が運営された。

準決勝には、僅差の試合の連続をしぶとくモノにしてきた城西大学（埼玉）、大学ソフトボール界の「名門」にして「強豪」、大会最多「20回」の優勝回数を誇る日本体育大学（東京）、3年ぶり2回目の「頂点」をめざす金沢学院大学（石川）、前年の「覇者」山梨学院大学（山梨）との延長タイブレークにもつれ込む「死闘」を制し、勝ち上がった日本文理大学（大分）が大会最終日の準決勝に駒を進め、「大学女子日本一」の座をかけた「最終決戦」に臨んだ。

〈準決勝〉 日本体育大学 0－1 城西大学

城西大学は2回裏、四球で出塁した走者がすかさず盗塁。犠打で確実に走者を進め、一死三塁とした後、二死後、1番・向田衣舞がレフト前に「執念」のタイムリー！ 頼れる「キャプテン」の一打で城西大学が先手を取った。守っては、先発・馬場ことりが、この「虎の子」の1点を「ノーヒット・ノーラン」の大記録を達成する快投で守り切り、1－0の完封勝利！ 決勝進出を決めた。

一方、日本体育大学は打線が沈黙。1点に泣き、創部70周年の「節目」の年に、優勝を飾ることはできなかった。



城西大学が決勝進出！

〈準決勝〉 金沢学院大学 0－1 日本文理大学

金沢学院大学・吉松沙和、日本文理大学・鶴田美優、両投手が一步も譲らぬ投げ合いを展開。息詰まる投手戦となり、両チーム得点できないまま、試合は延長タイブレークへ突入した。

延長8回表、金沢学院大学は1番から始まる好打順ということもあり、強気の「強攻策」に出たが、結果的にこれが「裏目」となり、無得点。

その裏、日本文理大学は二死二・三塁から、ここまで力投を続けてきた吉松沙和の115球目が「まさか……」のワイルドピッチとなり、あけない幕切れ。日本文理大学が1－0のサヨナラで決勝へ駒を進めた。



ワイルドピッチで試合が決着

〈決勝〉 日本文理大学 3－4 城西大学

試合は初回から激しく動き、先攻の日本文理大学が初回、安打、犠打で得点圏に走者を進め、4番・岡部七海のタイムリーで先制すれば、その裏、城西大学も相手守備の乱れに乗じてすぐに同点に追いつき、その直後の2回表、日本文理大学が8番・有元杏のタイムリーで再び1点のリードを奪うというめまぐるしく変わる試合展開の中、迎えた4回裏、城西大学は一死からの連打で一・二塁の反撃機をつかみ、次打者のサードゴロの間に、それぞれ進塁。ここで8番・川原悠莉がしぶとくライト前に落とす逆転のタイムリーを放ち、二者が還り、3－2と試合をひっくり返し、決勝戦にふさわしい二転三転の好ゲームとなった。



試合はそのまま最終回を迎え、城西大学が逃げ切るかと思われたが、日本文理大学は安打で出塁した走者を一塁に置き、1番・早田真愛が右中間を抜く適時三塁打。土壇場で3－3の同点に追いつき、延長タイブレークに……。

城西大学は8回裏、二死満塁から9番・渋谷ひよりがセンター前にはじき返し、歓喜のサヨナラ！ 出場21回目にして、ついに「初」の栄冠を手にした。



大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は、日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

◎第47回全国中学校男子・女子大会◎

令和7年8月18日（月）～21日（木）※悪天候の影響により1日順延
大分県竹田市／竹田丸福スタジアム・多目的広場 他



★男子の部★
新島学園中学校（群馬）

17年ぶり2回目の
優勝



★女子の部★
東海大学菅生高等学校中等部（東京）

2年連続2回目の
頂点へ

記録提供：大分県協会記録委員会

（公財）日本中学校体育連盟設立70周年記念…令和7年度全国中学校体育大会「第47回全国中学校男子・女子大会」が、今年は大分県竹田市を舞台に開催された。

大会には全国各都道府県・地区の予選を勝ち抜いた男子／16チーム、女子／28チームが出場。男子は竹田丸福スタジアムを主会場に、女子は竹田丸福多目的広場を主会場として熱戦が繰り広げられた。

男子の部のベスト4に名乗りを上げたのは、島原JHS男子ソフトボールクラブ（長崎）、新島学園中学校（群馬）、厚木クラブJr（神奈川）、尾道市立御調中学校（広島）。

女子の部のベスト4には、浜松市立浜北北部中学校（静岡）、東海大学菅生高等学校中等部（東京）、神田女学園中学校（東京）、岸和田市立岸城中学校（大阪）が勝ち進み、男女それぞれ大会の「クライマックス」に注目が集まった。

◎男子の部◎

〈準決勝〉

新島学園中 7―0 島原JHSクラブ

後攻の新島は初回、四球、盗塁、送りバントで一死三塁のチャンスを作ると、3番・小田澤輝のショート頭上を

越えるタイムリーで1点を先制。続く2回裏にも8番・田中祐輔がランニングホームラン、3回裏にも2番・新嶋鼓のタイムリースリーベースで1点ずつを追加。試合の主導権を握った。



新島が先制・追加点を奪い、試合の主導権を握る！

勢いに乗る新島は5回裏にも2番・新嶋鼓、代打・青山瑠生のタイムリーで一挙3点、6回裏には7番・新木琥太郎のタイムリースリーベースで7点目を奪い、得点差コールドゲームを成立させ、優勝に王手をかけた。

〈準決勝〉

御調中 3―1 厚木クラブJr

初回、2回と両チーム無得点。試合が動いたのは3回表、御調はこの回先頭の8番・内海魁星がライトオーバーのツーベースで出塁。その後、内野ゴロ等で二死ながら三塁に進むと、ワイルドピッチで1点を先取。その裏、厚木も二死から1番・加藤佑馬が豪快にソロホームランを叩き込み、すぐに同点に追いついた。

4回表、御調は4番・森川暁成のセンターオーバーのツーベースを足場に塁上を賑わせ、7番・中津湊人がライト前へタイムリー。2―1と1点を勝ち越し。7回表には二死から9番・木曾翔夢、1番・木梨詩音の連続スリーベースで大きな3点目を加え、3―1で勝利し、決勝進出を決めた。



エース・安藤壘も熱投し、決勝へ

〈決勝〉

新島学園中 11―2 御調中



好調・新島打線が得点を重ね、予想外の大差に…

初回、新島が1点を先制すれば、御調も負けじと2点を奪い返す！このまま「一進一退」の攻防が続くかと思われたが、試合は予想外の展開に。1点を追う新島は3回表、1番・西原仁稀がショート強襲ヒットで出塁。さらに相手投手の制球の乱れで一死満塁とし、5番・宮崎凱のセカンドゴロの間に三塁走者が還り、同点。なお二死・三塁のチャンスが続き、6番・野口悠豊がレフトオーバーのタイムリーツーベース！二者が還り、この回3点を挙げ、4―2と試合をひっくり返した。

打線に火がついた新島は、続く4回表にも4番・木暮飛雲のツーランホームラン等3本の長打を浴びせて一挙5点を追加。5回表には9番・赤坂颯介、1番・西原仁稀の連打等で2点を加え、11―2と大きくリード。

守っては、エース・小田澤輝がその裏の御調の攻撃を三者凡退に打ち取り、5回得点差コールドが成立。文字通り「大勝」で17年ぶり2回目の栄冠をつかんだ。

◎女子の部◎

〈準決勝〉

東海大菅生中等部 **4―0** 浜北北部中



「世界」を制した北村葉琉が貴様を見せる！

後攻の東海大菅生は初回、ヒット、送りバント、ライトフライタッチアップで二死ながら走者を三塁に進めると、

4番・川合瑠香がレフトオーバーのタイムリーツーベースを放ち、1点を先制。先手を取った東海大菅生は3回裏にも、一死二・三塁から4番・川合瑠香の犠牲フライ、5番・北村葉琉のタイムリーツーベースで2点を追加。4回裏には7番・西峯里桜のツーベース、三盗で無死三塁とした後、8番・鈴木伶彩の犠牲フライでもう1点加え、4―10とリードを広げた。

守っては、前回大会の「優勝投手」で、今年のU15ワールドカップでも「日本代表のエース」として世界を制した北村葉琉が貴様のピッチングを披露！ 浜北北部打線に最後まで得点を許さず、完封勝利を収め、連覇へ王手をかけた。

〈準決勝〉

岸城中 **3―2** 神田女学園中

両チーム得点圏に走者を進めながらも、チャンスで「あと1本」が出ず、試合は0―0のまま、延長タイブレークに突入。

8回に1点ずつを取り合い、9回は再び両チーム無得点。迎えた10回表、神田女学園はタイブレークの走者を送りバントで三塁に進め、8回同様「捨て身のスクイズ」を取行、相手守備の乱れも重なり、1点を勝ち越した。

しかし、岸城はその裏、タイブレークの走者を二塁に置き、2番・山本こゝろの犠打がフィルダースチョイスとなつて無死一・三塁。すかさず二盗を決め、二・三塁とプレッシャーをかけると、ここで3番・七野果恋が二者を迎え入れるレフトオーバーのタイムリーツーベース―3―2と「執念」の逆転サヨナラ勝ちを収め、決勝進出を決めた！！



常勝・岸城の「執念」が勝った

〈決勝〉

東海大菅生中等部 **1―0** 岸城中

東海大菅生・北村葉琉、岸城・七野果恋、「両エース」が一步も譲らぬ緊迫の投手戦を展開。試合は0―0のまま、延長タイブレークに突入することとなった。

迎えた8回表、岸城は先頭打者が空振り三振に倒れ、一死二塁。この後野選、盗塁で二・三塁としたが、後続が空振り三振、ピッチャーゴロに打ち取られ、またしてもチャンスで「あと1本」が出ず……。得点を挙げる事ができなかった。

その裏、東海大菅生も先頭の3番・大森すみれが空振り三振に倒れ、一死二塁の状況になったが、4番・川合瑠香が故意四球で歩かされ、一・二塁。「チーム躍進の立役者」5番・北村葉琉のバットにすべてが託されることに。最後はその北村葉琉がツーボール・ツーストライクと追い込まれた後の5球目をフルスイング―力強く放たれた打球はレフト後方へぐんぐん伸び、歓喜のサヨナラタイムリーツーベースとなつて死闘に終止符！！ 東海大菅生が1―0で岸城に勝利し、見事「大会連覇」を成し遂げた。



最後はやはり、北村葉琉。歓喜の連覇達成！！



【男子の部】大会トーナメント表、
全試合イニングスコアはこちら！



【女子の部】大会トーナメント表、
全試合イニングスコアはこちら！

◆第46回全日本クラブ男子選手権大会◆

令和7年9月13日（土）～16日（火）※悪天候の影響により1日順延
三重県桑名市／ノザキ製菓アイリスパーク球場 他



日本男子ソフトボール「クラブチーム日本一」を競う「第46回全日本クラブ男子選手権大会」が三重県桑名市を舞台に開催され、全国各地の予選を勝ち抜いてきた32チームが「ハイレベルな熱戦」を展開。

国内トップリーグ、日本リーグに所属する「地元」三重ヴェルデウィンをはじめ、大会に出場したすべてのチームがその迫力あるプレイを自ら体現し、開催地・三重で男子ソフトボールの「魅力」「醍醐味」を大いにアピールした。

激闘を勝ち上がり、ベスト4進出を果たしたのは前回王者・大阪桃次郎（大阪）、日本エコシステム（岐阜）、三重ヴェルデウィン（三重）、愛媛ウエスト（愛媛）。いずれも日本リーグ勢の顔ぶれとなり、大会最終日、クラブの頂点をかけた最後の戦いが繰り広げられた。

〈準決勝〉
日本エコシステム 7－6 大阪桃次郎

後攻のエコシステムは初回、1番・松尾唯斗、2番・吉村利駆杜の長短打で無死二・三塁と攻め立て、2つのワイルドピッチであっさり2点を先取。さらに3番・我如古海斗がセンターへ「会心の当たり」のソロホームランを叩き込み、この一回一挙3点を先制した。



上松健太郎のタイムリーで決着！

エコシステムは3回表に一発（ツーランホームラン）を打ち返されたものの、その裏、6番・榎壮馬のタイムリーで1点を追加。6回裏にも8番・龍頭輝、9番・上松健太郎の連続ホームランで2点を加え、これで勝負あったと思われる。

しかし、7回表、桃次郎が1番・岡龍太郎のスリーラン、3番・宇根良祐のソロホームランと「一発攻勢」で6-16の同点に追いつき、「まさか……」の延長タイブレークに突入。

迎えた8回表、桃次郎は強攻策に出たものの、2つの内野ゴロで走者を進められないまま二死となり、その後、安打が出たものの、9番・松本峻もサードゴロに倒れ、無得点。

その裏、エコシステムは対照的にバントで走者を進めると、これが安打となり、無死一・三塁。故意四球で満塁となり、9番・上松健太郎が一・二塁間を抜く劇的なサヨナラタイムリー！！11年ぶりの決勝へ駒を進めた。

《準決勝》

三重ヴェルデウィン 7-0 愛媛ウエスト

後攻の三重は初回、一死一塁から3番・芦田翔が右中間へツーランホームラン。続く4番・上田郁也もセンターへソロホームランを叩き込み、いきなり3点を先制。4回裏にも四球、ツーベース等で一死二・三塁のチャンスを作り、9番・井上匠の犠牲フライで1点を追加。5回裏には3番・芦田翔、5番・櫻庭佑輔、6番・北木隆貴のタイムリーで3点を加え、得点差を7点に広げ、そのまま5回コールド勝ち！2年ぶりの優勝に王手をかけた。

《決勝》

三重ヴェルデウィン 5-4 日本エコシステム

「地元開催」で「王座奪還」に意気込む三重が、初回鮮やかな先制攻撃！一死一・二塁から4番・上田郁也がライントヘスリーラン、その後、二死一塁の場面で7番・山下鉄太が左中間ヘツーランホームランを突き刺し、一挙5点を奪った。

このままでは終われないエコシステムも4回表、3番・我如古海斗のツーベース、内野安打、死球で無死満塁と攻め立て、6番・榎壮馬が左中間へ2



「地元開催での優勝」に喜びもひとしお！！

点タイムリーツーベース。なお無死二・三塁のチャンスが続く、ワイルドピッチで3点目、一死後、8番・龍頭輝も二遊間を破るタイムリーを放ち、1点差に詰め寄った。

三重は4回表、エコシステムに4点目を返されたところでもたまず投手交代。先発・木場田翔也から「選手兼監督」で「元・日本代表」のサウスボーク・河野拓郎へつなぎ、その河野拓郎が氣迫溢れる「さすがのピッチング」でリードを死守！5回、6回、7回と追加点を許さず、5-4で逃げ切り、歓喜爆発！！地元・三重で2年ぶり2回目の優勝を手にした。

大会トーナメント表、全試合イニングスコアはこちら！



第22回全日本一般男子大会

令和7年8月23日（土）～25日（月）
茨城県桜川市・石岡市／桜川市総合運動公園 他
記録提供：茨城県協会記録委員会



茨田南クラブ（大阪）

7年ぶり2回目の優勝!!



大会 MVP・岡村誠人
（茨田南クラブ）



優秀選手・芳賀健
（トホードリームス）

【大会概要】

標記大会が、8月23日（土）～25日（月）の3日間、茨城県桜川市・石岡市／桜川市総合運動公園を主会場に開催された。

各都道府県の代表48チームが参加。大会初日、8球場を使用し、1回戦・2回戦32試合を行い、2日目は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を実施。大会最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、全日程を終了した。

大会は一種異様なほどの「酷暑」「猛暑」の中での開催となり、適宜「給水タイム」を設け、選手・審判員の健康状態等にも細心の注意を払い、大会が運営された。

準決勝には、2回戦で昨年の「覇者」時津クラブ（長崎）を破って勢いに乗り、快進撃を続ける「へべれけ」（愛知）。7年ぶりの「栄冠」をめざす上位進出の「常連」茨田南クラブ（大阪）。今大会2回目の出場で昨年はベスト8、今大会はベスト4とステップアップしている鳴門クロウバーズ（徳島）。昨年は決勝まで駒を進めたものの、惜しくも敗れ、今大会で雪辱を期すトホードリームス（福島）。以上の4チームが大会最終日まで勝ち残り、最後の決戦に挑んだ。

〈準決勝〉 茨田南クラス 3-0 ヘベれけ



「ヘベれけ」も懸命に戦ったが…

先攻の茨田南クラスは相手先発投手の制球の乱れにつけ込み、3つの四死球で一死満塁とし、5番・木浦大介のライト前へのタイムリーでまず1点を先取。二死となった後、相手投手が再び制球を乱し、二者連続の押し出し四球で2点を追加。茨田南クラスが初回到3点を先制した。

守っては、初回到3点のリードをもらった茨田南クラスの「エース」岡村誠人が相手打者に的を絞らせず、巧みな投球術でピッチングを組み立て、「ヘベれけ」打線を翻弄。わずか1安打に抑え込み、9三振を奪う力投で決勝進出を決めた。

〈準決勝〉 トーホードリームス 5-4 鳴門クロバーズ

初回到2点を先制されたトーホードリームスはその直後の2回表、安打、犠打で一死二塁とし、7番・芳賀健、8番・岩井一人の長短打、スクイズで2-2の同点に追いつき、さらに相手守備の乱れもあり、あっさり逆転に成功。3回表には7番・芳賀健にツーランホームランが飛び出し、5-2と3点差にリードを広げた。

一方、鳴門クロバーズも3回裏に3番・熊谷壮次郎が追撃のソロホームランを放ち、5回裏にも1点を返し、1点差まで迫ったが、6回裏の攻撃を終了したところで無念の時間切れ。決勝進出はならなかった。

トーホードリームスが
逆転勝ち！ 決勝進出

〈決勝〉 トーホードリームス 0-6 茨田南クラス

7年ぶりの「全国制覇」に燃える茨田南クラスは初回、2本の安打等で二死ながら二・三塁と攻め立て、5番・木浦大介のレフトへのタイムリーで二者生還。2点を先制し、本塁への送球の間に打った木浦大介が二塁まで進塁。次打者のセカンドゴロがエラーを誘い、二塁走者が還り、この回3点を先制した。

初回到3点のリードをもらった茨田南クラスの「エース」岡村誠人は冷静なピッチングでトーホードリームス打線を抑え込み、序盤を無失点で乗り切ると波に乗った。

そんな「エース」の好投に打線も応え、3回裏、茨田南クラスはこの回先頭の2番・園田勇気がライト前ヒットで出塁すると、次打者に2球、さらにその次の打者にも1球と、ワイルドピッチが続き、労せずして1点を追加。

10三振を奪う力投！
完封勝利の岡村誠人

4回裏にも相手守備の乱れと2番・園田勇気のタイムリーで決定的な2点を追加。6-0と大きくリードを広げた。

守っては、「エース」岡村誠人がトーホードリームス打線をわずか1安打に抑え込み、10奪三振の力投で最後まで得点を許さず、見事な完封！「大会MVP」に輝いた。

敗れたトーホードリームスは2年連続の準優勝。決勝まで駒を進めながら「あと一歩」のところで「優勝」には手が届かずにいる。

第22回
全日本一般男子
ソフトボール大会
決勝
ダイジェスト

2025.8.25
茨城県桜川市
桜川市総合運動公園



決勝戦ダイジェスト動画はこちら

大会結果の詳細、全試合のインニングスコア等は、
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第30回全日本レディース大会

令和7年9月6日（土）～8日（月） 岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園

記録提供：岩手県協会記録委員会

世田谷クラブ（東京）



優秀選手賞
森 美波（年中夢球）



最優秀選手賞
田谷 めぐみ（世田谷クラブ）

大会初日（6日／土）に1回戦・2回戦の2試合、2日目（7日／日）は雨が降る中ではあったものの、なんとか3回戦・準々決勝の12試合を行い、ベスト4が出揃った。

最終日（8日／月）には、BRAVE E弘前（青森）、世田谷クラブ（東京）、年中夢球（愛知）、リトルシャイアデマス（岐阜）の4チームが勝ち上がり、レディース「日本一」の座をかけて、最後の戦いに挑んだ。



大会3日間をサポートくださった岩手県協会の皆さん

「第30回全日本レディース大会」は9月6日（土）～8日（月）の3日間、岩手県花巻市・石鳥谷ふれあい運動公園を会場に開催された。

〈準決勝〉BRAVE 弘前 0－9 世田谷クラブ

「東北勢」の期待を背負って戦った
BRAVE 弘前だったが……



後攻の世田谷クラブは初回、四球、ワイルドピッチで無死二塁の先制のチャンスをつかみ、次打者の送りバントで一死三塁とチャンスを広げ、続く3番・諸星美姫のセンターへの犠牲フライで三塁走者がホームイン。1点を先制し、さらに、4番・道音貴子がセンター前ヒットで出塁すると、3つのワイルドピッチで生還し、この回2点を先取。2回裏にも、一死一塁から怒涛の6連打。打者11人を送る猛攻で一挙6点を奪い、8－0とリードを広げ、勝負を決めてしまった。世田谷クラブは、3回裏にも3番・諸星美姫のタイムリーでもう1点を加え、9点目。そのまま9－0で5回を終了し、大会規程により得点差コールド勝ちを収め、決勝に駒を進めた。

〈準決勝〉年中夢球 10－5 リトルシャイ アダマス

序盤の大量得点で決勝進出を決めた年中夢球



先攻の年中夢球は初回、1番・古海礼華の三塁線を破る安打と犠打、敵失で一死一・三塁とし、パスボールで三塁走者が生還。なお一死二塁のチャンスが続き、二死後、5番・渡辺翠、6番・福重さくら、7番・神谷紗希、8番・安田優莉音の4連続長短打等で一気に5点を先制。続く2回表にも、3番・愛葉茉帆、4番・森美波の連続長打で1点を加え、5番・渡辺翠の三遊間を破る安打と盗塁等で二死二・三塁とし、代打・中嶋萌花のタイムリーで三塁走者が生還。この回2点目を挙げ、7－0とリードを広げた。年中夢球は2点を返され、迎えた3回表にも、この回先頭の1番・古海礼華のバント安打、2番・田畑琳香のセカンド内野安打、3番・愛葉茉帆の四球で無死満塁と攻め立て、4番・森美波、5番・渡辺翠の連続タイムリーで2点を挙げ、さらに相手守備の乱れに乗じてもう1点を追加。10－2と再びリードを広げた。

守っては、3回裏からリリーフした古海礼華の制球の乱れに守備の乱れも絡み、リトルシャイ アダマスに3点を返されたものの大勢に影響はなく、10－5で勝利し、決勝進出を決めた。

《 決 勝 》世田谷クラブ 4－2 年中夢球

世田谷クラブは3回表、二死から四球、3番・諸星美姫のサード強襲安打、四球で満塁と攻め立て、次打者への初球がワイルドピッチとなり、あっさりと1点を先取。続く4回表にも、一死から四球と2つのエラーで満塁とし、次打者への4球目がワイルドピッチとなり、三塁走者が生還。思わぬ形で2点をリードし、試合の主導権を握った。世田谷クラブは5回表にも、この回先頭の3番・諸星美姫のライト前ヒット、4番・道音貴子の二遊間を破る安打で無死一・二塁とし、次打者の犠打で一死二・三塁とチャンスを広げると、6番・西井琴音のセンター前タイムリーで1点を追加。なお一死一・三塁の好機が続き、次打者の2球目にヒットエンドランを仕掛けるも、これが失敗となり、三塁走者が三・本間でアウトとなる間に一塁走者が二塁に進塁。追加点のチャンスを潰したかに見えたが、7番・笠間春那、8番・山根幸恵の連打でもう1点を加え、4－0とリードを広げた。

4点を追う年中夢球はその裏、この回先頭の1番・古海礼華のレフトオーバーのツーベースと犠打、四球で一死一・三塁の反撃機をつかみ、4番・森美波のセンターの頭上を越えるタイムリーツーベースで1点を返すと、続く5番・渡辺翠のレフトファウルフライで三塁走者が判断よくスタートを切り、タッチアップからホームイン。この回2点を返したが反撃もここまで。その後は、世田谷クラブの「新エース」田谷めぐみが年中夢球打線を無得点に抑え、4－2で勝利。6年ぶり2度目の栄冠をつかんだ。



新エース・田谷めぐみが大会MVPに

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！



第34回全日本実年大会 (2025.9.6～8／福島県会津若松市・喜多方市)

悪天候のため
準決勝・決勝中止

4チーム優勝!

大会概要

標記大会が9月6日（土）～8日（月）の3日間、福島県会津若松市・喜多方市の両市で開催された。大会には全国都道府県の代表48チームが集い、熱戦を繰り広げた。

大会初日（9月6日／土）は8球場を使用し、1回戦・2回戦32試合が行われ、大会2日目（9月7日／日）は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を実施。大会最終日（9月8日／月）に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合が行われる予定であったが、最終日がいにくの雨。天候の回復が見込めないと、準決勝・決勝の中止が決定され、ベスト4に残ったSLC福岡（福岡）、愛港クラブ（愛知）、福島ソフトクラブGG（福島）、久本寺ウエンテラーL（長崎）の4チームを「同時優勝」とし、大会の幕を閉じた。

準々決勝 SLC 福岡 6－2 北川通信実年 SC

後攻の北川通信実年SCは初回、1番・木下龍彦の安打からチャンスをつかみ、相手守備の乱れに乘じて1点を先制した。

先手を取られたSLC福岡もすぐに反撃。その直後の2回表、先頭打者が四球で出塁し、安打、四球等で一死満塁と攻め立て、1番・坂本栄二の一・二塁間を抜く安打で二者が還り、逆転に成功。なお二・三塁のチャンスが続き、2番・酒見史朗のセカンドゴロの間に三塁走者が還り、3点目。続く途中出場の3番・中村武志にもタイムリーが飛び出し、この一回一挙4点を奪い、試合をひっくり返した。

SLC福岡は5回表、2本の安打と死球で一死満塁の追加点のチャンスをつかみ、8番・出雲克彦がセンターへ犠牲フライを打ち上げ、1点を追加。6回表にも、この回の先頭の1番・坂本栄二が安打で出塁し、すかさず盗塁で揺さぶりをかけ、捕手の悪送球を誘い、無死三塁。二死後、4番・原田淳司が三遊間を破るタイムリーを放ち、三塁走者を迎え入れ、さらに1点を追加。6－1とリードを広げた。

北川通信実年SCは6回裏、安打と四死球で無死満塁の反撃機を作り、一死後、1番・木下龍彦のセカンドゴロの間に三塁走者が還り、1点を返したが、チャンスを活かし切れず、1点止まり。この回の攻撃を終了したところで「制限時間」を迎えてしまい、無念の時間切れ。SLC福岡が6－2で勝利を取めた。

準々決勝 愛港クラブ 4－1 広島クラブ実年

先攻の愛港クラブは初回、1番・中村和也がライト頭上を越える先頭打者本塁打。いきなり強烈な先制パンチを浴びせ、先取点を挙げた。

愛港クラブが1点をリードしたまま、迎えた5回表には、一死から9番・前田賢一が四球を選び、出塁。次打者のセカンドゴロがエラーを誘い、一・三塁とチャンスを広げ、2番・犬飼信行がレフト前にタイムリーを放ち、三塁走者が生還。次打者のショートゴロで二塁走者が三塁フォースアウトとなり、二死一・二塁となった後、4番・越口博がライト線へタイムリーを放ち、二塁走者がホームイン。さらに相手守備の乱れもあり、この回3点を挙げ、4－0とリードを広げた。

守っては、先発・金丸勇増が好投。5回まで広島クラブ実年打線をノーヒットに抑えていたが、6回裏、先頭打者にレフト前ヒットを打たれ、「ノーヒット・ノーラン」達成の期待は消えた。それで気落ちしたわけでもないだろうが、その後、2本の安打を浴び、1失点。それでも後続を5－4－3とわたるダブルプレイに斬って取り、最少失点でピンチを脱し、広島クラブ実年の攻撃が終了したところで時間切れ。試合終了となり、愛港クラブが4－1で勝利し、翌日の準決勝・決勝が雨天中止となったことで「4チーム同時優勝」ながら「初優勝」を手にするようになった。

準々決勝 福島ソフトクラブGG 7－3 沖縄でいごクラブ実年

試合は初回から点の奪い合いとなり、先攻の地元・福島ソフトクラブGGが二死走者なしから3番・内山和則のライトへの三塁打、3連続四死球の押し出しでまず1点を先制し、なお続く二死満塁のチャンスに、7番・片平久美男が三遊間を破るタイムリーを放ち、この回2点目。福島ソフトクラブGGが初回到2点を先制した。

沖縄でいごクラブ実年もその裏、すぐに反撃に転じ、1番・山入端一郎の三遊間安打、2番・仲村久司のセンターへの三塁打で1点を返し、3番・大城勝のセカンドゴロの間に三塁走者が還り、2－2の同点に追いついた。

同点に追いつかれた福島ソフトクラブGGは3回表、2本の安打と四球で一死満塁と攻め立て、7番・片平久美男の二遊間を抜くタイムリーで二者生還。2点を勝ち越し、続く4回表にも一死から四球、盗塁、三振振り逃げ、安打で満塁となった後、4番・近野孝美のレフトへの犠牲フライ、5番・鈴木和則の三遊間を抜くタイムリーでこの回も2点を追加。6－2と4点差にリードを広げた。

沖縄でいごクラブ実年は4回裏、四球で出塁した走者を一塁に置き、9番・名嘉真義昭のライト前ヒットに相手守備の乱れが絡み、一・三塁とし、次打者のショートゴロの間に生還。1点を返し、3点差とした。

しかし、その直後の5回表に福島ソフトクラブGGに1点を追加され、7－3と再び4点差にリードを広げられ、その裏の攻撃を終了したところで「制限時間」を迎えてしまい、時間切れコールド。試合終了となった。

準々決勝 秋山工業惣開クラブ 1－2 久本寺ウエンテラーL

秋山工業惣開クラブは2回表、この回先頭の4番・黒木信貴のレフトフライがエラーを誘い、無死二塁の先制のチャンスをつかむと、次打者の死球、犠打で一死二・三塁とさらにチャンスを広げ、7番・宮崎貴志がキッチリとセンターへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者が生還。秋山工業惣開クラブが先取点を挙げた。

1点を追う久本寺ウエンテラーLは、5回まで秋山工業惣開クラブの先発・黒木信貴に2安打に抑えられていたが、6回裏によりやく反撃。一死から四球の走者を出すと、3番・織田聖がレフト前ヒットで続き、4番・平石伯史がレフト頭上を越える適時二塁打を放ち、1－1の同点に追いついた。

同点に迫いつき、息を吹き返した久本寺ウエンテラーLは最終回、この回先頭の6番・北村春美が安打を放ち、出塁。ワイルドピッチ、犠打で三塁へ進み、次打者のピッチャーゴロが野手選択となり、一死一・三塁。すかさず一塁走者が盗塁し、二・三塁となった後、9番・山口雅幸のファーストへの当たりがサヨナラの内野安打となり、久本寺ウエンテラーLが劇的なサヨナラ勝ち。息詰まる投手戦に終止符を打ち、粘る秋山工業惣開クラブを振り切り、2－1で勝利を取めた。

また、翌日の準決勝・決勝が雨天中止となったため、ベスト4進出の4チームが「同時優勝」となり、3チームが初優勝、久本寺ウエンテラーLのみ、2年ぶり2回目の優勝となった。

【写真提供：福島県協会 記録提供：福島県協会記録委員会】

※大会結果・全試合のイニングスコア等は日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第40回全日本壮年大会

令和7年9月13日（土）～16日（火） 鹿児島県南九州市／知覧平和公園多目的球場 他
記録提供：鹿児島県協会記録委員会



大阪スリークロス桃次郎（大阪）

2年連続2回目の優勝！



大会 MVP・中島幸紀
（大阪スリークロス桃次郎）



優秀選手・杉田順司
（SBC 神奈川・小田原）

【大会概要】

標記大会が、9月13日（土）～16日（火）の4日間、鹿児島県南九州市・知覧平和公園多目的球場を主会場に開催された。

各都府県の代表48チームが参加。大会初日、4球場を使用し、1回戦16試合を行い、2日目も2回戦16試合を実施。3日目に3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を実施し、無事、全日程を終了した。

大会は「酷暑」「猛暑」の中での開催となり、突然襲来する局所的な「集中豪雨」にも悩まされ、選手・チームの協力も得てグラウンド整備に奔走。

中断を挟みながらも試合を継続し、何とか予定された日程で大会を終了することができた。

準決勝には、「元・日本代表」の二枚看板を揃え、「優勝候補」筆頭の大坂スリークロス桃次郎（大阪）。破壊力のある打線の活躍で勝ち上がってきたSRF（埼玉）。3年ぶりの「戴冠」をめざすSBC神奈川・小田原（神奈川）。かつて「日本リーグ」でもプレイした好投手・栗田直哉を擁する可児ホークス壮年（岐阜）。

以上の4チームが大会最終日の準決勝・決勝へ駒を進めた。

〈準決勝〉
大阪スリークロス桃次郎 1-0 SRF



中島幸紀が1安打完封！

両チーム無得点で迎えた5回表、大阪スリークロス桃次郎は、この回先頭の7番・根ヶ山典宏がレフト前ヒット出塁すると、犠打、パスボールで三塁まで進塁。さらに四球の走者を出し、すかさず盗塁で二・三塁と攻め立て、二死となった後、2番・吉村和哉への初球がワイルドピッチとなり、三塁走者が生還。結局、この1点が決勝点となった。

守っては、「元・日本代表」の中島幸紀がその「本領」を発揮。破壊力抜群のSRF打線をわずか1安打に抑え込み、8三振を奪う力投。最少得点差を守り切り、1-0の完封で決勝進出を決めた。

〈準決勝〉
可児ホークス壮年 3-8 SBC神奈川・小田原

後攻のSBC神奈川・小田原は初回、1番・杉田順司、2番・武田和彦の連打と四球で無死満塁と攻め立て、一死後、押し出しの四球と6番・伊藤雄祐のレフトへの犠牲フライでこの回2点を先取。同点に追いつかれて迎えた2回裏には、二死二・三塁から3番・勝呂昌宏が塁上の走者を一掃する適時二塁打を放ち、再び2点を勝ち越し。3回裏には1番・杉田順司に満塁本塁打が飛び出す等、着々とリードを広げ、可児ホークス壮年の好投手・栗田直哉を打ち崩し、8-3とリードして迎えた4回裏の攻撃中、「制限時間」を迎え、時間切れコールドとなった。



満塁本塁打を放った杉田順司

〈決勝〉
大阪スリークロス桃次郎 7-5 SBC神奈川・小田原

SBC神奈川・小田原は2回裏、四球、敵失の走者を出し、無死一・二塁としたが走者を進められず、一死となった後、7番・柏木寛之が二遊間を抜く安打を放ち、満塁。8番・綾部修のショートゴロが本塁への悪送球を誘い、二人生還。なお一死二・三塁の追加点のチャンスが続き、二死後、1番・杉田順司の一・二塁間への当たりをセカンド・長秀一がよく追いついたものの、一塁への送球が逸れ、三塁走者が還り、この回3点を先制。SBC神奈川・小田原は続く3回裏にも、3番・勝呂昌宏の右越三塁打とワイルドピッチで1点を追加。「元・日本代表」の好投手・中島幸紀から4点のリードを奪う「想定外」の試合展開となった。

大阪スリークロス桃次郎は4回表、突然の激しい雨で相手投手が制球を乱したこともあり、安打と四死球で満塁と攻め立て、イリーガルピッチ、ワイルドピッチ、8番・浜口辰也の犠牲フライで3点を返し、1点差。土壇場の最終回、4本の長短打を集中する怒濤の攻撃で大量4点を奪い、逆転に成功。その裏のSBC神奈川・小田原の反撃を1番・杉田順司のソロホームランによる1点に抑え、7-5で逃げ切った。



大阪スリークロス桃次郎が優勝！

第40回全日本壮年ソフトボール大会

2025.9.13-14 鹿児島県南九州市



決勝ダイジェスト

決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳細、全試合のインニングスコア等は、日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

●第54回日本男子リーグ第3節●



「第54回日本男子ソフトボールリーグ」の後半戦が再開され、第3節が去る8月29日（金）～31日（日）の3日間、高知県高知市・三重県熊野市／御浜町を舞台に開催された。

高知・三重の2会場で「上位生き残り」をかけた熾烈な順位争いを展開！



上位争いは依然「大混戦」...

今節は、前節「単独首位」に浮上した平林金属、2位で追いかけるHondaがともに4勝1敗と勝ち越し、1位・平林金属（通算11勝2敗）は変わらず。2位・Honda（通算10勝3敗）も変わらないが、ここに三重ヴェルデウィンが同じ通算10勝3敗で並びかけ、2位タイ。通算9勝4敗の高知パシフィックウェーブが4位、ジェイテクトと大阪桃次郎が通算8勝5敗で同率5位に位置し、デンソー、旭化成、豊田自動織機、山口水産の4チームが通算7勝6敗・7位グループで続く状況。11位は通算6勝7敗の日本エコシステム。SAGAダイワアクト、トヨタ、愛媛ウエスト、安川電機の4チームは通算5勝8敗の同率12位、大阪・堺グローバルは通算4勝9敗の16位、埼玉県庁クラブは通算3勝10敗の17位と低迷し、熊本嶋田クラブも開幕から未だ勝ち星のない13連敗・18位と厳しい戦いが続いている。





全18チーム中「上位5チーム」
決勝トーナメントに進むのは!?

◎第3節終了時点、 全チーム勝敗・順位

1位 平林金属	11勝2敗
2位 Honda	10勝3敗
// 三重ヴェルデウィン	10勝3敗
4位 高知パシフィックウェーブ	9勝4敗
5位 ジェイテクト	8勝5敗
// 大阪桃次郎	8勝5敗
7位 デンソー	7勝6敗
// 旭化成	7勝6敗
// 豊田自動織機	7勝6敗
// 山口水産	7勝6敗
11位 日本エコシステム	6勝7敗
12位 SAGAダイワアクト	5勝8敗
// トヨタ	5勝8敗
// 愛媛ウエスト	5勝8敗
// 安川電機	5勝8敗
16位 大阪・堺グローバル	4勝9敗
17位 埼玉県庁クラブ	3勝10敗
18位 熊本嶋田クラブ	0勝13敗

※上位5チームが決勝トーナメントに進出



◆高知大会◆

【大会第1日(8月29日) 試合結果】

高知パシフィックウェーブ 8-3 愛媛ウエスト
大阪桃次郎 7-3 デンソー
安川電機 7-2 日本エコシステム
高知パシフィックウェーブ 6-4 ジェイテクト
大阪桃次郎 20-10 埼玉県庁クラブ
日本エコシステム 3-1 愛媛ウエスト
ジェイテクト 7-1 埼玉県庁クラブ
デンソー 5-2 安川電機

【大会第2日(8月30日) 試合結果】

日本エコシステム 9-8 デンソー
ジェイテクト 2-1 大阪桃次郎
愛媛ウエスト 8-0 埼玉県庁クラブ
日本エコシステム 5-3 ジェイテクト
安川電機 9-1 埼玉県庁クラブ
高知パシフィックウェーブ 15-4 デンソー
高知パシフィックウェーブ 3-1 安川電機
大阪桃次郎 4-1 愛媛ウエスト

【大会第3日(8月31日) 試合結果】

ジェイテクト 6-4 愛媛ウエスト
デンソー 3-1 埼玉県庁クラブ
日本エコシステム 4-2 高知パシフィックウェーブ
安川電機 2-1 大阪桃次郎

◆三重大会◆

【大会第1日(8月29日) 試合結果】

トヨタ 12-2 熊本嶋田クラブ
三重ヴェルデウィン 14-3 大阪・堺グローバル
SAGAダイワアクト 8-0 山口水産
Honda 6-1 トヨタ
旭化成 4-1 大阪・堺グローバル
SAGAダイワアクト 5-3 豊田自動織機
Honda 5-3 熊本嶋田クラブ
三重ヴェルデウィン 8-4 旭化成
山口水産 6-3 平林金属

【大会第2日(8月30日) 試合結果】

平林金属 13-1 熊本嶋田クラブ
SAGAダイワアクト 5-4 大阪・堺グローバル
豊田自動織機 4-1 トヨタ
平林金属 6-0 Honda
三重ヴェルデウィン 2-1 山口水産
豊田自動織機 8-4 旭化成
Honda 3-2 大阪・堺グローバル
旭化成 2-1 トヨタ

【大会第3日(8月31日) 試合結果】

三重ヴェルデウィン 6-1 熊本嶋田クラブ
平林金属 4-0 旭化成
大阪・堺グローバル 6-0 山口水産
三重ヴェルデウィン 2-1 SAGAダイワアクト
豊田自動織機 4-0 熊本嶋田クラブ
山口水産 9-3 トヨタ
平林金属 4-0 SAGAダイワアクト
Honda 3-1 豊田自動織機

第3節の詳細レポート、 ダイジェスト動画はこちら！

東地区

戸田中央 21勝2敗
初優勝へ首位独走



ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第10節・第11節

西地区

トヨタ 19勝3敗
3連覇へ首位快走

第10節

後半戦再開となる「ニトリ JD. LEAGUE 2025」第10節は「東地区」が栃木県宇都宮市、「西地区」が愛知県刈谷市、「交流戦」が群馬県高崎市の全国3会場で開催された。

「東地区」では、快調に首位を走る戸田中央が2試合連続の完封勝ちで連勝。通算成績18勝2敗と星を伸ばし、完全に「独走態勢」に入った。



「東地区」無敵の快進撃を続ける戸田中央

これを追うのが15勝4敗1分で2位のビックカメラ高崎。「交流戦」で「西地区」のチームに連勝。必死に「首位」戸田中央の背中を追いかけてはいるが、その差をなかなか縮めることができず

にいる。

3位は15勝6敗のホンダ。僅差の接戦、2試合連続で1点差のゲームをモノにする等、今節3連勝。しぶとく上位争いに食らいついでいる。

昨シーズンの「東地区」の覇者・日立は今節連敗で11勝8敗1分の4位。10勝10敗で勝率5割、5位・デンソーがその背後に迫っている。以下、8勝13敗のNECプラットフォームズが6位、5勝14敗1分の太陽誘電が7位、開幕から勝ち星なしの20連敗と出口の見えない暗闇の中で光明を探しあえぐ大垣ミナモが最下位となっている。

「西地区」では、首位を快走するトヨタが今節も連勝。2試合連続の完封勝ちで通算成績17勝3敗。2位以下を大きく引き離し、「3連覇」へ向け、順調な歩みを続けている。

2位には堅実で安定した戦いを続ける13勝8敗の豊田自動織機がつけ、11勝9敗のSHIONOGI、11勝9敗1分のSGホールディングスが「プレーオフ進出圏内」の3位を激しく争い、「東地区」4位との「ワイルドカード」争いも睨みながら、激しいデッドヒートを続けている。

以下、9勝11敗の伊予銀行が5位、6勝14敗の東海理化、タカギ北九州が同率6位、5勝15敗の日本精工が最下位となっている。

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第10節「東地区」宇都宮ラウンド 栃木県宇都宮市・宇都宮清原球場

月 日		試合結果
9月5日(金)		ホンダ リヴェルタ 2-1 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
9月6日(土)	第1試合	デンソー ブライトベガス 0-3 戸田中央 メディックス埼玉
	第2試合	ホンダ リヴェルタ 3-2 日立 サンディーバ
	第3試合	大垣 ミナモ 3-11 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
9月7日(日)	第1試合	戸田中央 メディックス埼玉 3-0 日立 サンディーバ
	第2試合	デンソー ブライトベガス 0-9 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第3試合	ホンダ リヴェルタ 10-0 大垣 ミナモ

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第10節「西地区」刈谷ラウンド 愛知県刈谷市・刈谷球場

月 日		試合結果
9月5日(金)		豊田自動織機 シャイニングベガ 3-1 SGホールディングス ギャラクシースターズ
9月6日(土)	第1試合	伊予銀行 ヴェールズ 3-2 東海理化 チェリーブロッサムズ
	第2試合	豊田自動織機 シャイニングベガ 0-1 トヨタ レッドテリアーズ
	第3試合	日本精工 ブレイブベアリーズ 2-4 SGホールディングス ギャラクシースターズ
9月7日(日)	第1試合	伊予銀行 ヴェールズ 0-3 トヨタ レッドテリアーズ
	第2試合	東海理化 チェリーブロッサムズ 0-8 SGホールディングス ギャラクシースターズ
	第3試合	豊田自動織機 シャイニングベガ 3-0 日本精工 ブレイブベアリーズ

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第10節「交流戦」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム

月 日		試合結果
9月6日(土)	第1試合	SHIONOGI レインボーストックス 5-2 太陽誘電 ソルフィュー
	第2試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン 3-0 タカギ北九州 ウォーターウェーブ
9月7日(日)	第1試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ 4-5 太陽誘電 ソルフィュー
	第2試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン 2-1 SHIONOGI レインボーストックス

選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信は JD.LEAGUE 公式サイトで

<https://jdleague.jp/>

第11節

「ニトリ J.D. LEAGUE 2025」第11節は「東地区」が群馬県高崎市、「西地区」が北海道札幌市、「交流戦」が静岡県掛川市の全国3会場で開催された。

「東地区」高崎ラウンドの「フライデーナイト」と「交流戦」の掛川ラウンドの初日が雨天順延となり、予備日を使つての日程消化となった。

「東地区」では、戸田中央が今節も快調に3連勝！ 2位・ビックカメラ高崎の「ホーム」に乗り込み、4-3の接戦をモノにし、これでビックカメラ高崎との「直接対決」は3戦全勝。通算成績21勝2敗と勝ち星を「20勝」の大会に乗せ、首位の座を揺るぎないものとしている。

戸田中央との「直接対決」に敗れたビックカメラ高崎は16勝5敗1分で2位。2位とはいうものの、「首位」との差が徐々に広がっている。

ホンダは16勝7敗の3位。ビックカメラ高崎同様、「好位置」につけてはいるが、首位との差は広がるばかり……。今節連勝の日立が13勝8敗1分と星を伸ばし、「ワイルドカード」圏内をキープ。上位進出のためには、今節「連勝」が絶対条件と意気込んでいたデン

ソーはホンダ戦を落とし、11勝11敗で勝率5割。一進一退の状況から抜け出せず、「ワイルドカード」争いから一歩後退。以下、9勝14敗のNECプラットフォームズが6位、6勝16敗1分の太陽誘電が7位、開幕から勝ち星なしの22連敗となった大垣ミナモが最下位に沈んでいる。



「西地区」首位を走る「王者」トヨタ

「西地区」は、「3連覇」を狙うトヨタが順調に勝ち星を積み重ね、通算成績19勝3敗で首位独走。14勝9敗の豊田自動織機が2位につけ、12勝10敗1分のSGホールディングスが3位で続き、「プレーオフ」進出圏内を死守。今節「まさか……」の3連敗を喫したSHIONOGIは11勝12敗と勝率5割を切り、伊予銀行と並んで「同率4位」。「東地区」4位との「ワイルドカード」争いでも苦しい状況に立たされている。以下、7勝15敗で東海理化、タカギ北九州が並び、「同率6位」。5勝17敗の日本精工が最下位となっている。

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第11節「東地区」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム				
月 日	試合結果			
9月12日(金)		太陽誘電 ソルフィュー	雨天順延	戸田中央 メディックス埼玉
9月13日(土)	第1試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン	3-2	ホンダ リヴェルタ
	第2試合	太陽誘電 ソルフィュー	2-6	デンソー ブライトペガサス
	第3試合	大垣 ミナモ	0-19	戸田中央 メディックス埼玉
9月14日(日)	第1試合	ホンダ リヴェルタ	7-3	デンソー ブライトペガサス
	第2試合	戸田中央 メディックス埼玉	4-3	ビックカメラ高崎 ビークイーン
	第3試合	太陽誘電 ソルフィュー	6-4	大垣 ミナモ
9月15日(月・祝)		太陽誘電 ソルフィュー	0-3	戸田中央 メディックス埼玉

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第11節「西地区」札幌ラウンド 北海道札幌市・モエレ沼公園野球場				
月 日	試合結果			
9月12日(金)		伊予銀行 ヴェールズ	4-2	SHIONOGI レインボーストックス
9月13日(土)	第1試合	東海理化 チェリーブロッサムズ	2-6	トヨタ レッドテリアーズ
	第2試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	5-0	伊予銀行 ヴェールズ
	第3試合	SHIONOGI レインボーストックス	3-5	タカギ北九州 ウォーターウェーブ
9月14日(日)	第1試合	トヨタ レッドテリアーズ	5-0	SGホールディングス ギャラクシースターズ
	第2試合	SHIONOGI レインボーストックス	4-5	東海理化 チェリーブロッサムズ
	第3試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	2-11	伊予銀行 ヴェールズ

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第11節「交流戦」掛川ラウンド 静岡県掛川市・いこいの広場野球場				
月 日	試合結果			
9月13日(土)	第1試合	日立 サンディーバ	雨天順延	豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	雨天順延	日本精工 プレイブベアリーズ
9月14日(日)	第1試合	日立 サンディーバ	7-2	日本精工 プレイブベアリーズ
	第2試合	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	2-3	豊田自動織機 シャイニングベガ
9月15日(月・祝)	第1試合	日立 サンディーバ	2-1	豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	3-2	日本精工 プレイブベアリーズ

ニトリ JD.LEAGUE 2025			
東地区 第11節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	戸田中央 メディックス 埼玉	21勝2敗	0.913
2位	ビックカメラ高崎 ビークイーン	16勝5敗1分	0.762
3位	ホンダ リヴェルタ	16勝7敗	0.696
4位	日立 サンディーバ	13勝8敗1分	0.619
5位	デンソー ブライトベガサス	11勝11敗	0.500
6位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	9勝14敗	0.391
7位	太陽誘電 ソルフィュー	6勝16敗1分	0.273
8位	大垣 ミナモ	0勝22敗	0.000
西地区 第11節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	トヨタ レッドテリアーズ	19勝3敗	0.864
2位	豊田自動織機 シャイニングベガ	14勝9敗	0.609
3位	SGホールディングス ギャラクシースターズ	12勝10敗1分	0.545
4位	SHIONOGI レインボーストックス	11勝12敗	0.478
4位	伊予銀行 ヴェールズ	11勝12敗	0.478
6位	東海理化 チェリーブロッサムズ	7勝15敗	0.318
6位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	7勝15敗	0.318
8位	日本精工 ブレイブベアリーズ	5勝17敗	0.227



**JAPAN
SOFTBALL
LEAGUE**

第58回日本女子ソフトボールリーグ

第3節

令和7年9月6日（土）・7日（日）

☆プラチナセクション：茨城県古河市・幸土上大野グラウンド
★サファイアセクション：神奈川県厚木市・厚木市営玉川野球場

Sapphire Section



☆プラチナセクション☆

静甲、8勝2敗で単独首位
3チームが同率2位で追う大混戦

★サファイアセクション★

YKK、8勝2敗で単独首位に立つ
小泉病院が7勝3敗の2位で追走！

●第3節・プラチナセクション概要●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」第3節プラチナセクションは、9月6日（土）・7日（日）の両日、茨城県古河市・幸土上大野グラウンドを会場に開催された。

交流節を終え、「連覇」を狙うMORIAL WAVE KANOYA、大和電機、静甲の3チームが「同率首位」に並んでいたが、静甲が今節連勝。混戦状態から一歩抜け出し、通算成績8勝2敗で「単独首位」に立った。

静甲は今節初戦のルネス紅葉スポーツ柔整専門学校戦に8―0で圧勝すると、続く「同率首位」に並ぶ大和電機との「首位攻防戦」も延長タイブレークにもつれ込む「死闘」の末、4―2で勝利を収め、今節連勝。「単独首位」に立った。

昨シーズンの「覇者」MORIAL WAVE KANOYAは、今節初戦「同率首位」に並ぶ大和電機との「首位決戦」で延長タイブレークの末、0―1のサヨナラ負け。今節1勝1敗で通算成績7勝3敗となり、首位争いから一歩後退した。

大和電機も首位争いを演じる「ライバル」たちとの「直接対決」で1勝1敗。混戦状態を抜け出せず、7勝3敗で「同率2位」となった。

ここに第3節終了時点で5勝3敗の4位につけていた花王コスメ小田原が今節連勝で7勝3敗と星を伸ばし、「同率2位」に並びかけ、3チームが7勝3敗で並ぶ大混戦となっている。



第3節で連勝を飾り、「同率2位」につけた花王コスメ小田原

Citrine Ichinomiyahは今節連敗で通算成績2勝8敗の5位。ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校も今節勝ち星がなく、通算成績1勝9敗で最下位となっている。

●第3節・サファイアセクション概要●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」第3節サファイアセクションは、9月6日（土）・7日（日）の両日、神奈川県厚木市・厚木市宮玉川野球場を会場に開催された。

第3節終了時点で通算成績6勝2敗、「同率首位」に並んでいたYKKは、今節初戦、首位争いの「ライバル」VONDS市原との「直接対決」に臨み、初回に先制を許す苦しい試合展開となりながら3回表に逆転。4本の長短打を集め、2―1と試合をひっくり返し、先発・室山凜、左腕・畑中萌とつなぐ継投で1点差を守り切り、「単独首位」に立つと、続く平林金属戦は「自慢」の強力打線が本領を発揮。13安打・二桁10得点を奪い、10―1で大勝。通算成績8勝2敗とし、「単独首位」に立った。

YKKとの「首位決戦」に破れたVONDS市原は、そのショックが尾を引いたか、続く厚木SC戦も2―3で落とし、「まさか……」の連敗。通算成績6勝4敗となり、3位に転落した。これに代わって、今節連勝の小泉病院が通算成績7勝3敗と星を伸ばし、2位につけた。初戦の厚木SC戦、初回に「4番」に座る「ルーキー」泉野美音のスリランで先手を奪うと、先発・杉本詩葉が厚木SC打線を3安打

完封。4―0で快勝し、続くペヤング戦は11安打と打ちまくり、7―1で圧勝。今節連勝で2位に順位を上げた。

4位は4勝6敗の平林金属。初戦のペヤング戦は6―0と圧勝したもの、続くYKK戦は1―10で大敗。一進一退の状況から抜け出せず、上位との差は開くばかり……。

今節「ホーム」開催となった厚木SCは首位争いを演じるVONDS市原を3―2で破る「大金星」を挙げ、2勝目。通算成績2勝8敗とし、最下位脱出に成功。



「ホーム」で2勝目を挙げた厚木SC

今節も勝ち星のなかったペヤングは通算成績1勝9敗で最下位となっている。

第58回日本女子ソフトボールリーグ 第3節「プラチナセクション」					
月 日	試合結果				
9月6日(土)	第1試合	花王コスメ小田原 フェニックス	4-3	Citrine Ichinomiya	
	第2試合	静甲	8-0	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	
	第3試合	大和電機 Blue Lakers	1-0	MORI ALL WAVE KANOYA	
9月7日(日)	第1試合	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1-4	花王コスメ小田原 フェニックス	
	第2試合	MORI ALL WAVE KANOYA	10-4	Citrine Ichinomiya	
	第3試合	大和電機 Blue Lakers	2-4	静甲	

第58回日本女子ソフトボールリーグ 第3節「サファイアセクション」					
月 日	試合結果				
9月6日(土)	第1試合	厚木SC	0-4	小泉病院 Blue Arrows	
	第2試合	ペヤング	0-6	平林金属 Peachblossoms	
	第3試合	VONDS市原 Emerald Green	1-2	YKK	
9月7日(日)	第1試合	小泉病院 Blue Arrows	7-1	ペヤング	
	第2試合	平林金属 Peachblossoms	1-10	YKK	
	第3試合	厚木SC	3-2	VONDS市原 Emerald Green	

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

JSLでは試合を行うだけでなく、ソフトボールの普及活動にも力を注ぎ、試合前のエスコートキッズ、サイン会の実施、ソフトボール教室の実施等、様々な取り組みを進めている



第58回日本女子ソフトボールリーグ

プラチナセクション 第3節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	静 甲	8勝2敗	0.800
2位	MORI ALL WAVE KANOYA	7勝3敗	0.700
2位	大和電機 Blue Lakers	7勝3敗	0.700
2位	花王コスメ小田原 フェニックス	7勝3敗	0.700
5位	Citrine Ichinomiya	2勝8敗	0.200
6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1勝9敗	0.100

サファイアセクション 第3節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	YKK	8勝2敗	0.800
2位	小泉病院 Blue Arrows	7勝3敗	0.700
3位	VONDS市原 Emerald Green	6勝4敗	0.600
4位	平林金属 Peachblossoms	4勝6敗	0.400
5位	厚木SC	2勝8敗	0.200
6位	ペヤング	1勝9敗	0.100



大会結果詳細、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は

JSL オフィシャルウェブサイトで <https://jsl-women.com/>

リーグも再開！ 全日本大会も開催続く！！



楽しみ方いろいろ！！ それがソフトボールだ

9月に入り、JDリーグ、日本リーグ男子・女子の後半戦が再開され、夏場から開催の続いている「全日本大会」（全国大会）も真つ盛り！ 全国各地で大会が開催されている。

暦の上では「秋」になっても、日本全国「残暑」厳しく……いよいよ「残暑」どころか「真夏」のような「猛暑」「酷暑」が続いている。また、台風発生の時期ともなり、その影響を受けた悪天候、局所的、あるいは短時間に猛烈な勢いで降る雨・突風等、グラウンド整備や飛ばされたフェンスの再設置、補修等、大会運営の悩みは尽きず、雨天順延ともなれば「平日」に大会がズレ込み、人員の確保に奔走し、本来なら本部席で正装している大会役員まで総出でファウルボールを拾い、雨に濡れ、泥で汚れたボールを拭く……そんな姿も見られた。チームの皆さんも試合後のグラウンド整備や片付け、集中豪雨で水浸しになったグラウンドの水とりを手伝う等、大会に関わるすべての人が力を合わせ、滞りなく大会が行われている。

「生涯種別」の大会では、かつて「日本代表」や「日本リーグ」で活躍した選手が本当に楽しそうにプレイし、家族総出で応援に繰り出し、懐かしい仲間と再会し……いろんな形でソフトボールを楽しむ姿が見られるのは嬉しい限り。これこそ「無上の幸せ」です。

日本男子・女子リーグ JDリーグ



全日本大会



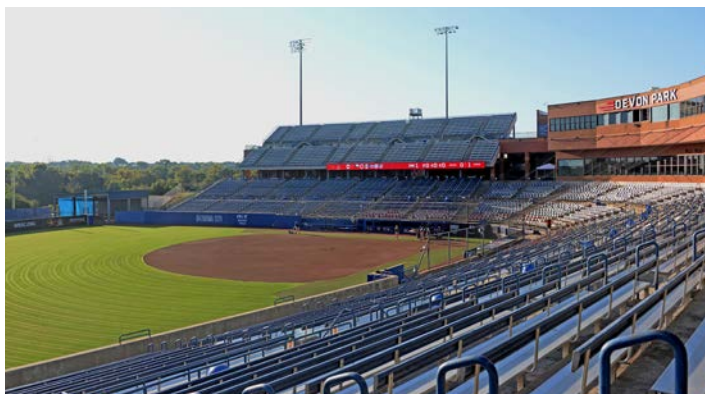
事務局だより

女子U18日本代表 さらなる成長を誓って！

次代の日本女子ソフトボールを担う「選ばれし16名」の選手たち…2025女子U18日本代表チームが、9月27日～10月1日、アメリカ・オクラホマシティを舞台に開催された「第15回女子U18ワールドカップファイナル」に出場。2015年第11回大会から4連覇中の王者・アメリカをはじめ、世界の強豪と激闘を繰り広げた。



「ワールドカップ ファイナル」を戦い、貴重な経験を積んだ女子U18日本代表



今大会の会場となったのは、USA ソフトボールの本拠地として知られ「2028ロサンゼルスオリンピックソフトボール競技会場」となることもすでに決定しているソフトボール専用スタジアム「デボン・パーク」。その「LA28」を見据えた改修工事を経て、観客スタンドもさらに増設！選手たちがこのスタジアムを通じてより「夢」と「希望」を感じられるよう「一段とグレードアップ」していた。

試合の勝敗・大会成績が第一にあるのは当然のことながら、このアメリカの地で「ワールドカップファイナル」を経験した選手たちが今後どこまで「成長・飛躍」してくれるか……その「ステップアップ」していく姿を楽しみに見守りたい（※今大会の詳細については次号11月号でお伝えする）。



選手たちの「さらなる成長」を期待！